

全国総会NEWS

フェイスブック facebook.com/sportsrenmei

ツイッター twitter.com/sportsrenmei

スポーツの楽しみを
すべての人に広げよう

発行 新日本スポーツ連盟 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2 大住ビル 402 TEL : 03-3986-5401 FAX : 03-3986-5403 http://www.njsf.net

10グループに分かれて討論

分散会

2018年3月10～11日に開催された「新日本スポーツ連盟第33回定期全国総会」では、10グループに分かれて分散会を開催。以下のテーマで真剣な討論が行われました。各報告から抜粋して、内容を紹介します。

テーマ

- ① 世代継承と新たな人材発掘
- ② 誰もがスポーツに楽しく参加するためにできること

メッセージ

祝電をいただきました



新日本スポーツ連盟第33回定期全国総会の開催にあたり、心よりお祝い申し上げます。総会の成功と貴会の益々のご発展を祈念し、連帯のご挨拶をお贈りします。
全国保険医団体連合会 会長 住江 憲勇

分散会報告 発言ダイジェスト

1 20～30代は忙しい 定年後の60代以上でも良い



若い人でボランティアをしてくれる人は少ない。大会参加者に連盟を紹介し、運営を手伝ってもらいながら、仕事を覚えてもらうようにしたい。20～30代は忙しいので、定年後の60代以上でも良いのではないか。会議を役員だけにせず、オープンにして若い人も参加してもらったらどうか。大会では、同じレベルの人、同年齢の人を集めたリーグ戦はどうだろうか。(報告＝天川有美さん)

2 女性・子どもも楽しめるような活動を



女性・子供の参加が少ない。女性・子どもも楽しめるような活動をしたい。女性・子どもの参加についてフランスのFSGTなどを研究したらどうか。ビビチタのような世界同時マラソンを広めたい。参加者を増やすために、新しいスポーツ、例えば健康マージャン、吹き矢、魚釣り、囲碁、将棋などを取り入れるのはどうか。

(報告＝市川和広さん)

3 いろんな世代で運営を分担するのが良い



どこも世代交代は難しい。昔と同じやり方では通用しない、今の時代にあったやり方が必要ではないか。運営などもいろんな世代で分担するのが良いと思う。20代の参加者をやさしく見守ってほしい。(報告＝大田哲也さん)

4 母ちゃん、子どもを大事に周りにやさしく



分散会に女性の参加が少なかった。昨夜のような会議では女性が参加できないのではないかと。平和について考えてみた。母ちゃん、子どもを大事に、周りの人にやさしく接すること、これが一番と思った。(報告＝野崎進さん)

5 「スポーツ、君が主人公」は競技と運営の両方をやること

プレイヤーは多いが、運営・役員にはなっていない。「スポーツ、君が主人公」は競技と運営の両方をやることだと分かってもらいたい。連盟の理念を伝えきれていない。兵庫のロードレースのように自主的にかかわれないか。若い人が少ない



種目もあるが、60代以上でも良いのではないかと。子ども・ジュニアの育成をしていけば、大人になってから参加してくれるのではないかと。別の地域に行って交流するのは楽しみだし、連盟らしい活動ではないかと。初心者向けの大会をやってはどうか。人数が少なくてもできるスポーツを推進するのはどうだろうか。(報告＝置田康典さん)

6 小・中学生が参加すれば将来戻ってくることもある



種目によって難しいところもあるが、人柄をみながら一本釣りでもやるのが良いのではないかと。小・中学生に参加してもらえば、20代・30代になって戻ってくることもあるので、先を見て大会をやっていく必要がある。(報告＝平野義明さん)

7 社会的弱者やLGBTも楽しめる大会を

テーマの①と②はつながっている。誰でも楽しく参加できる大会をやれば、新たな人材も発掘できるのではないかと。大会後にアンケートをとって、「こんな大会が良いよね」という大会をすぐ開催し、好評を得ている。社会的弱者やLGBTも楽

分散会報告 発言ダイジェスト つづき



しめる大会も考えていかなければならない。
(報告＝菅原利幸さん)

8 PCではなくスマホ、LINE・FBを活用すべき



運営は60代以上が多い。SNSで若い人にアピールする必要があるが、パソコンではもう古い。スマホ、LINE、Facebookにした方が良い。大会では「気軽さ」がキーワードだと思う。フットサルのように気軽に、身一つで入れるようなスポーツが大事だ。
(報告＝植山良和さん)

9 仮装やタイム申請など…大会に工夫を



テニスでは、レッスンや大会参加者の中で、役員になりそうな人に声をかけている。マラソンプールで多くの参加者があったが、連盟大会では参加が少なくなっている。仮装やタイム申請など工夫した大会をやる必要があるのではないかな。
(報告＝脇海道博さん)

10 世代を超えて新しい人が運営に加わるように



世代交代は難しい。若い人は忙しくて会議や運営などに参加できない。人材発掘では、世代を超えて新しい人が運営に加わるようにしたい。女性には年齢をこえて協力していただいている。若くなくても新たな人材に加わってもらい、できるだけたくさんの人で運営するのが良いと思う。
(報告＝和田利男さん)

第32期 顕彰 在籍30年以上の加盟クラブ



つっぴんクラブ (宮城県水泳協議会)

水泳をやりたい、子どもを泳げるようにさせたいなど、親の要求がありクラブを作った。現在週1回仙台市市体育館の温水プールで練習。最高時の会員は大人・こども合わせて190名。

京都明峯勤労者山岳会 (京都府勤労者山岳連盟)

京都北労山として発足し、その後2002年に京都明峯山岳会に改名。「登山要求に応える会作り」「自立した登山者を作り出す」「そのために教育の機会を会員に提供する」を目標とし、一人ひとりの登山者が安全に楽しく登山をおこなえる事をテーマに活動。

西山ハイキングクラブ (京都府勤労者山岳連盟)

中高年の多様なハイキング要求に応えるために、京都府の2市1町を中心に17名で結成。その後、順調に会員が増えて現在は150名を超える。一人ひとりの要求を大切に、安全なハイキング・登山に徹するよう心がけている。

京都右京勤労者山岳会 (京都府勤労者山岳連盟)

2016年、創立50周年記念のイベントを盛大に行う。現在の会員は65名。「遭難のない安全で楽しい登山」を求めて、山行の充実や仲間との絆を強めるべく活動する。若い会員も少しずつ増え、新しい風を期待している。

京都洛中勤労者山岳会 (京都府勤労者山岳連盟)

日本勤労者山岳会発足の流れを受けて北杉班が誕生し、その北杉班から洛中勤労者山岳会として発展しスタートする。会員数は現在93名。登山技術や知識、山の情報、遭難対策や救助など安全登山の蓄積に努め意識を高めている。



京都左京勤労者山岳会 (京都府勤労者山岳連盟)

左京区在住・就労の若者を中心に結成。ハイキングから沢、アルパインまでを目標にやってきた。高齢化・会員減少の困難もあるが、会員同士はとても仲が良い。一人ひとりのやりたい事を実現する、仲間を大切に、あったかい会です。

乙訓山の会 (京都府勤労者山岳連盟)

総合山岳会として、里山から日本アルプスまで、毎月7～8回の山行に取り組み、年100回、のべ1000人程度の参加で安全登山をモットーに活動。ホームページや登山入門教室、公開山行等で広く市民に呼びかけて参加を募っている。

北大阪スキークラブ (大阪府勤労者スキー協議会)

新体連中央スキー学校での出会いを契機に、大阪市北区にある会社の労働組合青年部に呼びかけ、自分たちで「安全に、安く、早く上達する」スキー組織を目指して結成。それから紆余曲折を繰り返しながら難局を乗り越え、現在90名を超えるクラブになる。

スーパースターズ (東京野球協議会)

1979年、目黒区立第九中学校の同窓生を中心に品川区西小山で発足。2010年に発足メンバーが引退し、現在の体制に移行した。楽しく真剣に取り組んでいる。

アンケートから

たくさんのご意見ありがとうございました。
以下はその一部ですが、今後の参考にさせていただきたいと思っております。

- ・スポーツ基本法を活かした要求運動の方針をもっと深めていくことが大事だと思いました。
- ・資料は、項目でわかるようにしてほしい。「何が重要なのか？」がわかりません。
- ・もっとメリハリつけて、ここを掘り下げてということなどの強調してほしい。
- ・スローガンがとてもいいです。誰もが実践できそうです。
- ・方針について、疑問のある発言などについては、一定時間を設けて、会場からの発言も求め、丁寧に議論をしていく必要があると思います。
- ・「運営は悩みどころ」→こういう発表はありと思う。全体討論よりも、分散会をもっと重要にしたほうが良い。
- ・会場で発言されない方は、もっと文書発言を活用すべきだと思います。
- ・スポーツに特化した活動にという発言に対しての賛否の意見がなかったのは残念。
- ・圧倒的に討論時間が短い。1.5倍はほしい。もっと白熱した討論を期待していた。
- ・同じ種目からの発言があり、各種目1人ずつの報告を聞いてみたかった。
- ・改めて、スポーツ連盟の理念と歴史を学び直す機会となりました。
- ・各大会で、スポーツ連盟の理念のアピールはできていますか？ 全国からは、その問いかけと具体的なアピール方法のアイデアの提供を。
- ・分散会では他種目の様子が聞けて参考になったが、基本的には同じような問題を抱えているようだ。しかし、ダメだ、ダメだでは始まらない。やってみることが大事だ。
- ・若い人への継承、人材発掘に本気で挑戦していくことの必要性を強く感じました。
- ・努力する中で困っていることもあると思います。そうした問題点を全国で認識し合い、解決へと向かって行けるよう全国連盟に期待します。